

## 本部委員の主な意見

### □「やまぐち産業脱炭素化戦略（仮称）」骨子案について

#### （戦略骨子案全般に関する意見）

- 山口県は多種産業が集積し、豊かな自然に恵まれている等の特徴を有しており、カーボンニュートラルの実現に向けて、地域循環型での課題解決を図るためのポテンシャルの高い地域。CO<sub>2</sub> 排出量の多いコンビナートの低・脱炭素化の取組みを軸として、全産業分野が連携することが重要であり、内容について賛同。（トクヤマ：奥野委員、ひびき精機：松山委員）
- 産業分野での脱炭素の取組みが、ハードルが高いことを認識していただいた上で、脱炭素と産業界の成長・競争力の強化をバランスさせながら、2050年脱炭素への取組みを促進するための戦略として前向きに理解。（東ソー：田代委員）

#### （今後の施策等に関する意見）

- 地場の中小企業においては脱炭素化への意識が十分に浸透しているとは言い難い状況であり、本骨子案の5つの視点の中の「産学公金の緊密な連携」により、県内事業者の意識醸成と、その後の実装をこれまで以上に加速させたい。（山口銀行：小野委員）
- 中小企業や組立産業企業への意識浸透への支援をお願いする。（UBE：三浦委員）
- 県内中小企業に対しても具体的な政策を示すことが重要。（フジミツ：藤田委員）
- 森林資源や廃棄物の循環利用等、再生可能エネルギーの有効利用等高めるサプライチェーンの構築、それらを推進するための人材や技術の育成への支援を期待する。（奥野委員）
- カーボンニュートラルポートの形成推進については、次世代燃料供給拠点としての検討を進める際、陸上の動きと共に船舶燃料のトレンド（特にメタノールについて期待が高まっている）についても注視されるのがよいと考える。（大晃HD：木村委員）
- 「学」に期待する役割について具体的に記載いただけると有難い。（山口大学：上西委員）

### □「やまぐちコンビナート低炭素化構想」案について

#### （構想案全般に関する意見）

- 構想に示された取り組みの方向性は企業の脱炭素に向けた方向性と一致しており、産学官の連携のもと取り組みを進めていきたい。（田代委員）
- CO<sub>2</sub> の利活用を中心に進めたら良いのではないかと。（CO<sub>2</sub> を資源として捉えることに、攻めの姿勢を感じる）（松山委員）

#### （今後の施策等に関する意見）

- 2050年のカーボンニュートラルを実現するためには、個社の努力はもとより、企業間やコンビナート間の連携、トランジションにおける技術、コスト、制度面での国、自治体、大学・研究機関等の支援は不可欠であり、引続き県の強力な推進力に期待する。（奥野委員）
- 産学官金による施策実施時、補助金や税制優遇を検討してほしい。（三浦委員）
- 熱源として LNG あるいは将来は合成メタンの活用が期待される中、共同インフラとしてのパイプラインの整備ができれば、カーボンニュートラルに向けての大きな武器になるものと思う。（帝人：斎藤委員）
- コンビナート企業各社の新たな取組に対し、これら新たな技術についていく地元企業を掘り起こし、共に成長していくための機会や仕組み作りも必要ではないかと考える。（中小中堅を巻き込んだエリア全体での技術力向上が安定稼働・地域競争力の維持発展に寄与するものと思料）（木村委員）
- コンビナートの低炭素化に向けて、どのような人材が求められているのかについての記載がある方が良いのではないか。（山口大学：上西委員）

## □「やまぐち産業イノベーション戦略」の進捗状況について

### （戦略全般に関する意見）

- プロジェクトが順調に進んでいるものと評価。（田代委員、小野委員、奥野委員、木村委員）
- 実施内容の進捗評価のみならず、有効性を定量的に示すことについて検討願う。（三浦委員）

### （各プロジェクトへの意見）

#### 〔瀬戸内産業競争力・生産性強化プロジェクト〕

- 国際バルク港湾戦略について、これまでの石炭に加え、脱炭素関連でバイオマスの受け入れ強化が必要不可欠。その点も踏まえ港湾のインフラ整備強化をお願いしたい。また、徳山港コンテナトラブルがあり、入出荷設備強化もお願いしたい。（田代委員）
- 広域的な工業用水の供給体制に関し、今年前半雨が少なく厳しさを感じる局面あり。引き続き供給体制の強化をお願いしたい。（田代委員）

#### 〔地域産業 DX 加速化プロジェクト〕

- DX推進については県東部地区への展開を要望する。（奥野委員）

#### 〔オープンイノベーション加速化プロジェクト〕

- 「R&Dラボ」における技術交流会（WEB 開催）は、県内企業との技術交流ができる貴重な機会であり、継続していただきたい。なお、コロナが落ち着けば、対面開催について検討願う。（斎藤委員）
- 「奨学金返還補助制度を活用した県内就業者数」の実績が伸び悩んでいる。大学と

しても、しっかりと広報しなければならない。（上西委員）

#### [成長産業育成・集積プロジェクト]

- 「カーボンリサイクル」の技術の多くは水素が必要とのことであり、水素利活用の技術推進を加速するようにお願いします。（松山委員）
- 水素関連産業の加速については水素ステーションの設置数の増加を要望する。（奥野委員）
- その他汎用品から機能商品製造へのシフトが必要とされており、成長支援プロジェクト（環境・エネルギー、バイオ、自動車、ヘルスケア）の加速強化をお願いしたい。（田代委員）

#### [自動車関連産業イノベーション創出プロジェクト]

- 県内唯一の自動車メーカーとして自動車産業の急速な構造変化や車の電動化シフトに対応するため、特に県内中小企業の自動車産業への新規参入や新技術・新製品の創出、事業展開の拡大等を図る為、県との協力体制で活動を推進していく。（マツダ：末廣委員）

#### □その他

- 錦川取水場における海水遡上による塩害への対応について、昨年来、県には検討窓口を設定いただき、精力的な原因調査や情報交換をしていただきありがとうございます。引き続き、共同での回避策構築についてアドバイス、支援をお願いします。（斎藤委員）